

私の恩師

坂田 加奈子

天野明弘先生は、敬愛してやまない私の恩師です。天野ゼミにいた方々はみな、同じ気持ちだと思います。

私が人生の岐路に立っていた時、不思議なご縁で天野先生に出会い、その後、何度も背中を押していただく機会がありました。社会の荒波に出ても何度となく天野先生の穏やかな笑顔を思い出しながら、今日まで踏ん張ってくることができました。紆余曲折あったものの念願だった外資系企業に就職が決まり、そろそろちゃんご挨拶に伺いたいと思い先生の近況を調べていた矢先、訃報を知りました。

拙文で大変恐縮なのですが、この場をお借りして天野先生との思い出を振りかえらせていただき、ささやかながら感謝と追悼の気持ちとさせていただきますと思います。

小学生の時に国語の教科書で環境問題を知って以降、ずっと強い関心を抱き続けていた私は、地元鹿児島県の短期大学で英語教員の資格をとったあと、関西学院大学総合政策学部エコロジー科があることを知り、「進むべき道はこれだ」と即断で3年次編入進学を決めました。

天野先生とはじめての出会いは今から15年前、編入試験の面接室でした。部屋に入ると3人の面接官が座っておられ、その真ん中に穏やかな笑みをたたえたなんとも優しげな白髪の男性が座られていました。その方は、当時の私の熱い思いを詰めこんだ志望動機の作文に既に目を通しておられ、その内容についていくつかの質問を投げかけてられました。

面接官：「どうすれば環境問題は解決すると思いますか？」

私：「人々の無知により環境問題は起きていると思います。人々が現状を認識し、問題の起きた原因を知ることから始まると思います。」

面接官：「あなたは環境問題の啓蒙に関心があるようですね。」

その方は、最後に笑いながら「志望動機の中で『環境問題は、人々が共通の理念のもと行動するときには必ず解決するはず』とありますが、結局『共通の理念』というのが問題解決の一番難しい部分なんですよ。そしてまさにそれこそが、私達も一番知りたいところなんですよ。」とおっしゃっていたのが今でも忘れられません。

面接でのやりとりはとても楽しく実りある内容で、田舎者の私には思いもよらない刺激的な時間となりました。面接の帰り道に母親に電話で「今回落ちては構わない。今日の面接を受けることができただけで私はもう満足だよ。」と興奮しながら報告したことを今でもはっきりと覚えています。

その後、幸いにも合格通知が届き、翌年春から晴れて総政3年生となりました。入学後、あの時の面接官が総合政策学部長の天野先生であったことを知り、また、なんとも不思議なご縁で天野ゼミに入ることが決まりました。ゼミでは「必ず1回は質問する」とマイルールを決めていたのですが、私のまとはずれな質問に天野先生はいつも根気よく丁寧に解説してくださりました。また、ゼミで企画した食事会には必ず参加してくださり、有益な話題で私たちにエールを送ってくださったり、有馬温泉でのお別れ会ではカラオケで美声を披露してくださったことなども懐かしく思い出されます。

「問題解決＝知ること」の図式が頭から離れなかった私は、卒業論文のテーマに環境教育を選んだことを機に、もっと深く学んでみたいと関西学院大学文学研究科教育学修士課程に進学することを決めました。大学院進学に際しては、推薦状を書いてもらうために東灘区にある天野先生のお宅にお邪魔させていただきました。閑静な住宅街の

一角にあり、緑いっぱいの手入れの行きとどいたお庭が印象的な家でした。木の温かみの感じられる室内の2階に天野先生の書斎はあり、その場で温かい励ましの言葉とともに推薦状を書きあげてくださったことも忘れがたい大事な思い出のひとつです。

私は大学院卒業後に環境教育系NPOに就職し、その後転職して、現在は民間企業のファイナンス部門に在籍しています。天野先生という恩師との出会いによって得られた数々の思い出と感謝の気持ちを胸に、これからも地に足をつけて、自分の進むべき道をゆっくりと踏みしめながら歩んでいきたいと思います。

坂田加奈子(さかた かなこ 天野ゼミ2期生)